

会 議 録

会 議 名	第2回東浦町景観まちづくり委員会	
開 催 日 時	平成28年11月14日（月） 午前10時から午後3時30分まで	
開 催 場 所	東浦町役場 3階 合同委員会室	
出 席 者	委 員	海道清信氏(委員長)、久米弘氏(副委員長) 出村嘉史氏、梶川幸夫氏、竹田正巳氏 久米義金氏、万木和広氏、青山佳子氏、
	事務局	神谷町長、近藤建設部長、服部建設部次長 久米都市整備課長、岡本課長補佐 榊原都市計画係長、工藤主事、市川主事 ㈱国際開発コンサルタント 森下氏
議 題 (公開又は非公開の別)	1. 第1回委員会での議論の内容について（公開） 2. 明德寺川周辺の地区における景観資源及び課題について（公開） 3. 今後の予定（公開）	
傍聴者の数	5名	
議 論 内 容 (概 要)	議題の議論内容については、別紙のとおり	
備 考		

【第1回委員会での議論の内容について】

事務局：（第1回委員会の確認事項一覧について説明）

委員： 先行的に景観まちづくりを行う地区を明徳寺川周辺の地区に決定した。
行政だけが中心とならず、住民と協働して景観まちづくりを行えるように配慮すべきだと思う。

委員： 明徳寺川周辺の地区以外の地区も景観まちづくりを進めていくべきだと思う。

事務局： 明徳寺川周辺の地区以外の地区の景観まちづくりも進めなければならないと認識しているため、十分受け止めて対応していきたいと考えている。

【明徳寺川周辺の地区における景観資源及び課題について】

事務局： 前回の委員会にて議論した結果、「先行的に景観まちづくりを行う重点区域候補地区」を、明徳寺川周辺の地区に決定した。明徳寺川周辺の地区を景観形成重点区域に指定することを目指すため、岐阜大学准教授である委員（以下「説明委員」という。）が明徳寺川周辺地区の景観調査を実施した。議題「明徳寺川周辺の地区における景観資源及び課題について」では、当該調査報告内容に基づき議論いただきたい。

本日の予定として、「明徳寺川周辺の地区における資源及び課題」について議論するために、調査の結果得られた重要な視点場を6箇所現地視察する。各視点場のポイントについては、説明委員より現地で説明があるため、当該説明を踏まえ視察していただきたい。現地視察後、議論再開とする。

《現地視察後、議論再開》

説明委員：（明徳寺川周辺の地区における資源及び課題に係る調査について説明）

委員長： 午前中に現地視察した各視点場における景観資源及び課題について、説明委員による調査報告内容に基づき議論いただきたい。

委員： ぶどうの看板が卓越して目立つように見える。宣伝効果を狙っているものと思われるが、あえて彩度、明度の高いものを使わなくてもデザインを検討することにより宣伝効果も狙え、景観に馴染む看板が作れると思う。

委員： エリアによっては沿道サービス業者に理解を得る必要がある。県道側を表面として建築されている為、明徳寺川から見ると室外機等の附属設備がむき出

しになっており、良好な景観とは言えないと思う。

委員： 説明委員による調査報告内容を議題としたシンポジウム等を開催すると良いのではないかと思う。

委員長： 東浦らしさを考えていくのなら、東浦町内の人だけでなく町外の人からの評価も必要だと思う。

委員： シンポジウム等を開催するのであれば、様々な世代の人を呼ぶことも大切だと思う。

委員長： 規制誘導を進める前に、委員会で視点場等についてももう少し議論を進め、シンポジウム等を行うべきだと思う。

委員： 良好な景観について住民と共有を図った上で規制誘導をするべきだと思う。

委員： 建築物等の高さに係る行為の制限事項を定める場合においては、重要な視点場を設定することが大切になると思う。

委員： 現地視察した視点場も含めて、委員が共通して良好と思える視点場を選定したいと思う。

委員： 明徳寺川の良好な景観について、住民に楽しく理解してもらえるような機会を戦略的に設けていく必要があると思う。

委員長： 今後の方針としては、委員会で検討している内容をまとめて、シンポジウム等、住民と協議できる場を設けて思想を共有することとしたいが、よろしいか。

委員： 全会一致で了承する。

【今後の予定】

事務局： 今回の議論の内容を踏まえると、今後の予定については変更の必要があるため、第3回委員会にて確認する。

委員長： 以上で本日の議事を終了とする。次回の委員会は平成29年1月頃を予定する。

